

令和4年度実施 全国学力・学習状況調査（3年生対象）

結果と分析

4月19日に行われた全国学力・学習状況調査では、国語・数学・理科の3教科と生徒質問紙（生活や学習意識）調査が行われました。新学習指導要領実施後、初の機会であり、「主体的・対話的な学び」が今後の課題と判明した結果は7月28日に公表され、翌29日に新聞等で報道されました。本校については、結果に基づき、読み取れた分析をこの用紙で提示するとともに、3年生の個人結果を紙で配付しました。

さて、国語においては図1-1の調査結果概況にある通り、本校の平均正答率は全国や神奈川県（以下「全体」）のそれよりも10%高い結果となりました。散らばり具合を示す標準偏差も「全体」のものより小さいことから、極端に正答率が低い生徒は少なく、高い正答率に多くの生徒が集まっていることがわかります。グラフは棒グラフが本校、折れ線グラフが「国・県全体」の様子を示しています。これを見ると、「全体」の平均正答率は約10問ですが、本校ではそれ以上の正答率である生徒が学年の75%いる結果となります。

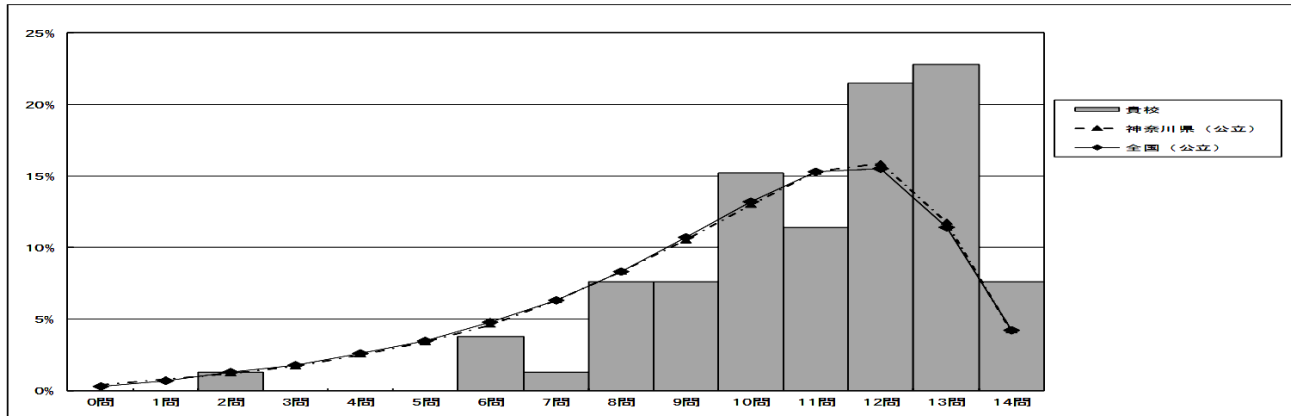
次に数学においても、平均正答率は全体より10%前後高い結果となりました（図1-2）。グラフから国語と比べると、生徒が広範囲に散らばっていることがわかります。「全体」も同じ傾向であり、これは教科の特性といえます。ただ、本校では正答数11問の生徒と7問の生徒の人数が多く、“山（峰）”が2つあるように見えます。これにより、数学を得意とする生徒とそうでない生徒との二極化傾向があるとみて取れます。

続いて理科における平均正答率は、「全体」より6%強高い結果となりました（図1-3）。「全体」の順番的に中央の生徒は11問正答ですが、本校はその人数が突出して多くなっています。また、極端に正答率の高い生徒も、低い生徒もいませんが、グラフの山の位置が「全体」の折れ線よりもやや右側にあることがわかります。

（図1-1）国語の調査結果概況と正答数分布グラフ

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
横浜市立鴨志田中学校	79	11.0 / 14	79	12.0	2.3
神奈川県（公立）	61,393	9.7 / 14	69	10.0	2.9
全国（公立）	891,820	9.7 / 14	69.0	10.0	2.9

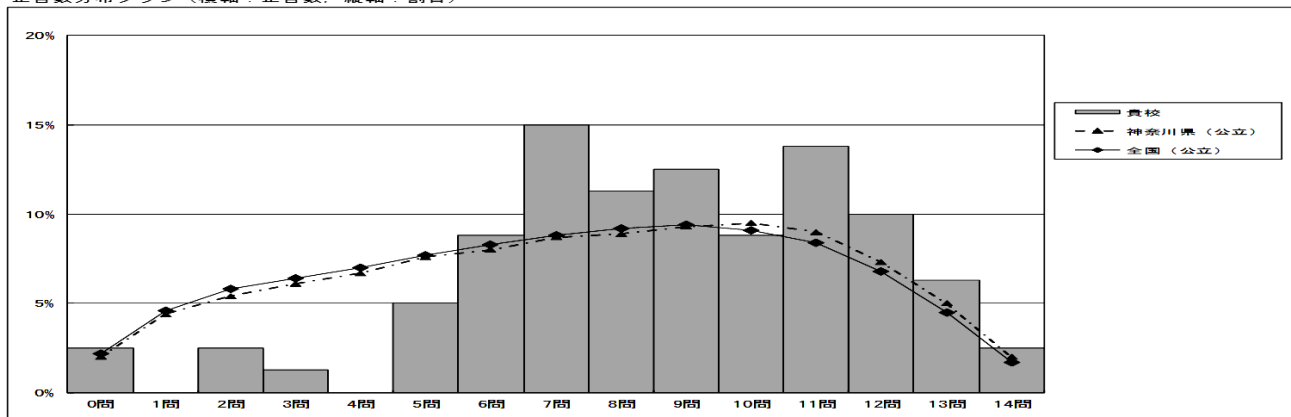
正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



（図1-2）数学の調査結果概況と正答数分布グラフ

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
横浜市立鴨志田中学校	80	8.7 / 14	62	9.0	3.0
神奈川県（公立）	61,393	7.4 / 14	53	8.0	3.6
全国（公立）	891,913	7.2 / 14	51.4	7.0	3.6

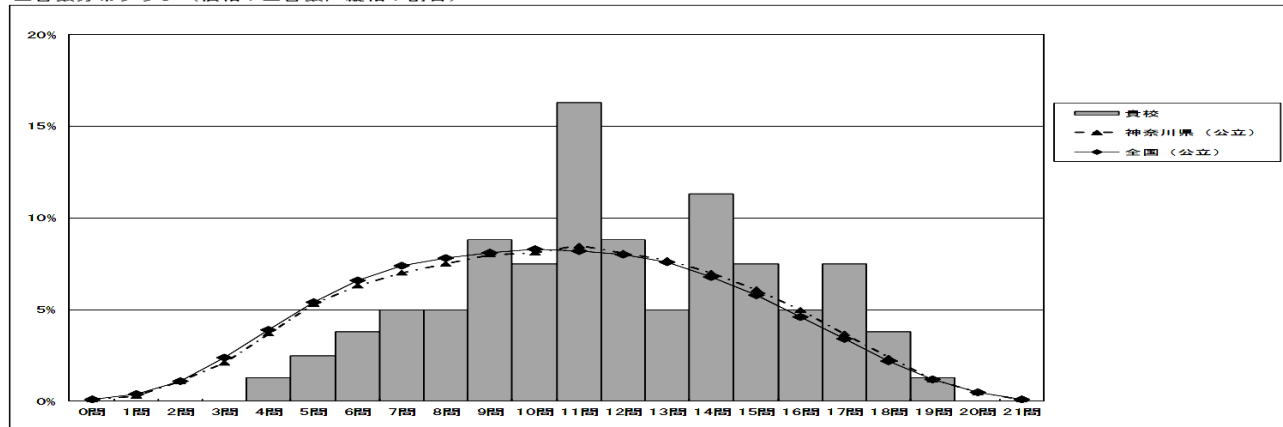
正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



(図 1-3) 理科の調査結果概況と正答数分布グラフ

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
横浜国立大学志田中学校	80	11.9 / 21	56	12.0	3.6
神奈川県 (公立)	61,439	10.5 / 21	50	11.0	4.1
全国 (公立)	892,585	10.4 / 21	49.3	10.0	4.1

正答数分布グラフ (横軸: 正答数, 縦軸: 割合)



各教科の問題形式別の正答率をまとめました (図 2-1)。この表は、問題の答え方の方法である選択問題、短い単語などで答える問題、文章などを記述する問題ごとに正答率を比較したものです。本校の正答率は、どの問題形式でも「全体」を上回っているのですが、とくに記述式の問題では3教科とも大きく「全体」を上回っています。これらの問題数は多くありませんが、思考・判断・表現の力を評価する問題がほとんどで、その能力の高い生徒が多いことを示しています。

(図 2-1) 問題形式別正答率 (%)

国語	鴨志田中	神奈川県	全国	数学	鴨志田中	神奈川県	全国	理科	鴨志田中	神奈川県	全国
選択式	78.9	74.5	73.7	選択式	57.5	54.2	52.6	選択式	55.8	50.3	49.6
短答式	81.0	70.0	70.3	短答式	79.8	66.7	65.7	短答式	31.3	25.5	24.8
記述式	74.3	57.7	57.4	記述式	48.0	37.5	36.2	記述式	63.8	54.8	53.5

また、知識や技能、思考・判断・表現の能力以上に、正答を導き出すことを諦めず、粘り強く問題に取り組む態度を備えている生徒が多いことが、(図 3-1、3-2、3-3) から読み取れます。

(図 3-1) は3教科それぞれの全記述式問題で、無回答で終わっている生徒の割合の平均値を「全体」と比べたものです。「全体」と比較して本校では、無回答で終わらせている生徒が非常に少ないことが一目瞭然です。つまり何らかの記述をしている生徒が多く、とくに国語や理科ではほぼ100%であることがわかります。

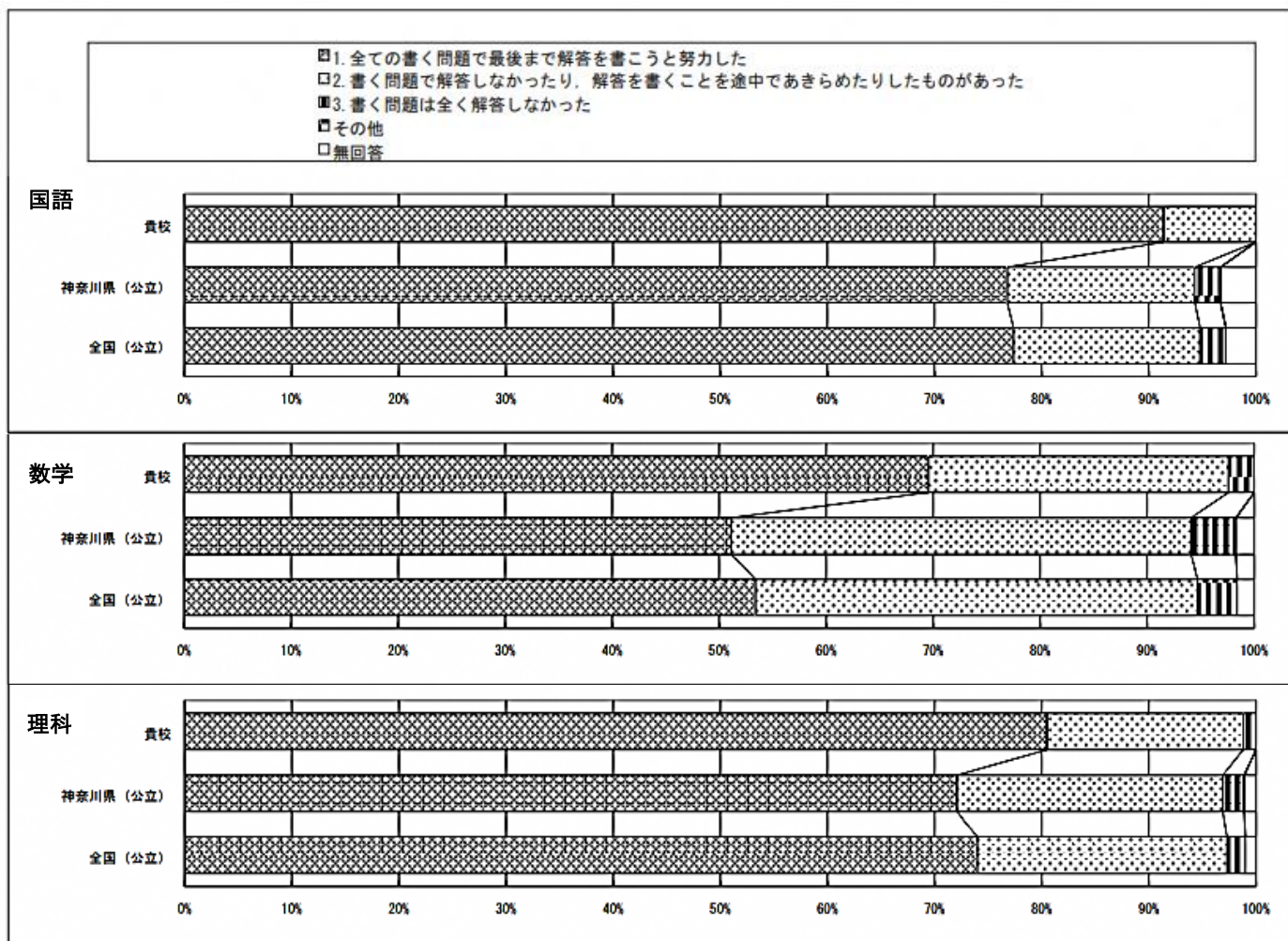
また、生徒自身が自分のことについて回答した生徒質問紙からも同様のことが確認できます。(図 3-2) は、記述式の問題についてどのように解答したか、という設問の回答について3教科をまとめた資料です。これによると、3教科とも「全ての問題で最後まで解答を書こうと努力した」と答えた生徒が「全体」を大きく上回っています。さらに国語と数学では、それでも「時間がやや足りなかった」「全く足りなかった」と答えている生徒が「全体」よりも多くなっています (理科はその傾向が若干名)。

粘り強く課題に取り組む態度は、主体的に学習に向かう態度の一つの側面です。それにあわせて理にかなった学習状況の把握や学習方法の獲得により、一段と学力が伸びることが期待できます。

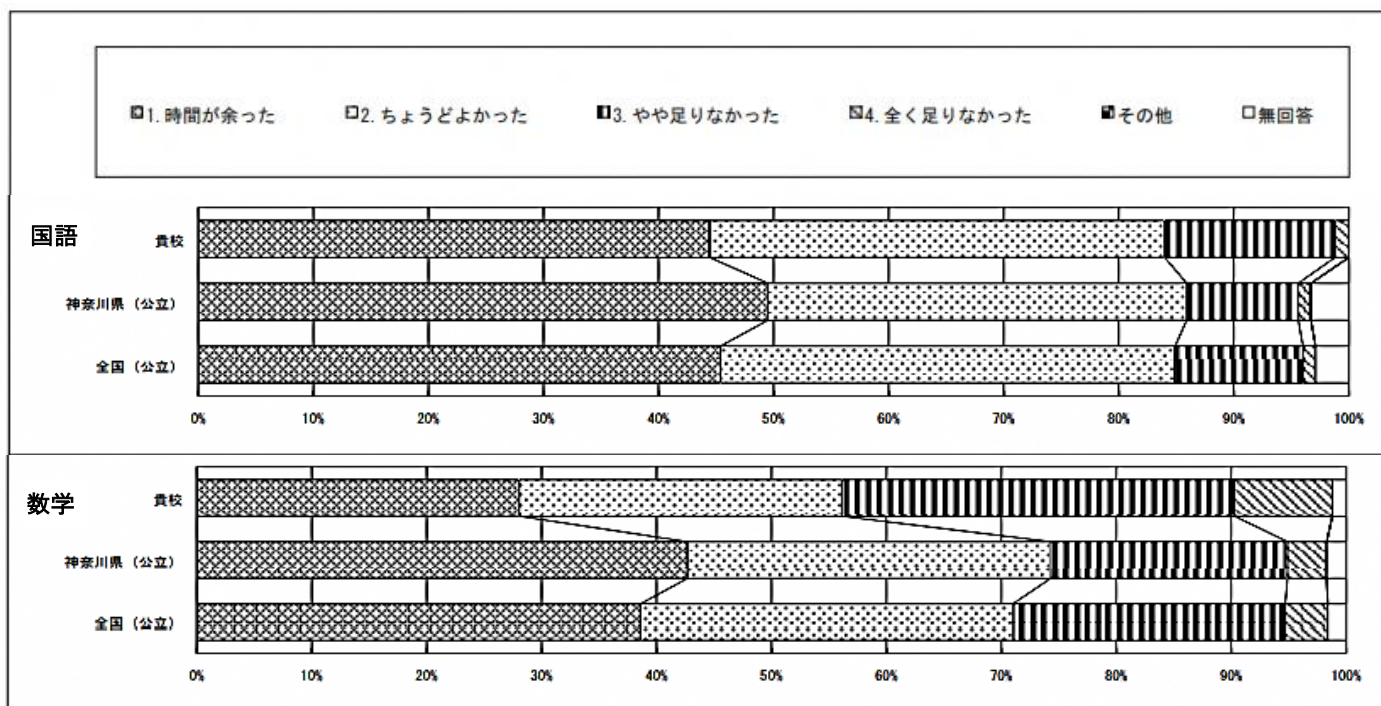
(図 3-1) 記述式問題を無回答にした生徒の割合 (平均値) (%)

国語	鴨志田中	神奈川県	全国	数学	鴨志田中	神奈川県	全国	理科	鴨志田中	神奈川県	全国
	2.1	11.6	12.8		9.5	21.4	22.1		1.9	7.8	8.4

(図 3-2) 文章で書く問題や数式や言葉で説明する問題にどのように取り組みましたか の回答結果



(図 3-3) 50 分の解答時間は十分でしたか の回答結果



なお、「全体」を下回った問題（観点、問題形式）は次の7問でした。その差は大きなものではありませんが、学校でも授業等の学習指導において改善できる点がないか、振り返る必要があります。

国語・行書の特徴を理解しているか問う（知識・技能、選択式）

数学・箱ひげ図から分布の特徴を読み取る（知識・技能、選択式）

- ・反例の意味を理解しているかを問う（知識・技能、選択式）

理科・日常生活の中で、物体が静電気を帯びる現象を問う（知識・技能、選択式）

- ・過去の大地の変動について、垂直方向の移動だけで推論した他者の考察を水平方向の移動も踏まえて検討、改善できるかどうかをみる（思考・判断・表現、選択式）

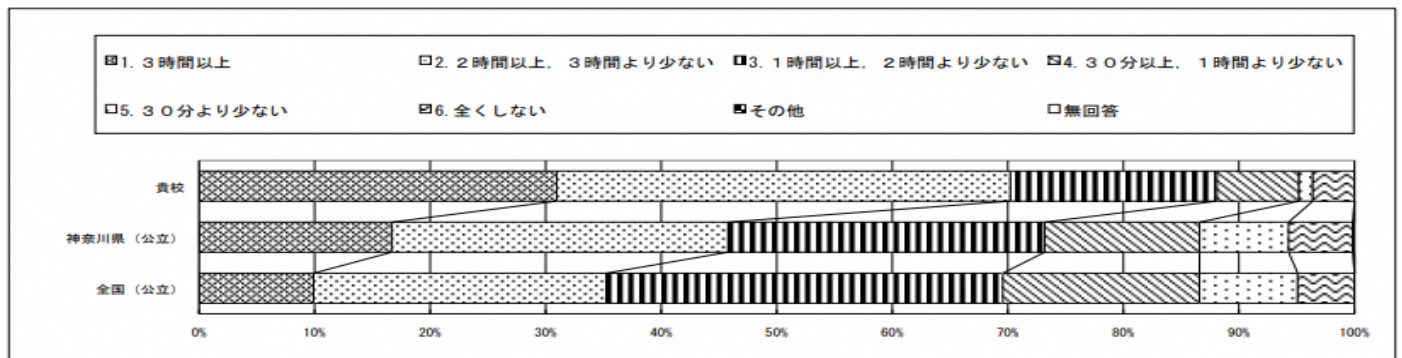
- ・生物Xが昆虫類かどうかアリと比較しながら、観点と基準を明確にして判断する（思考・判断・表現、記述式）

次に生徒質問紙の回答から、普段の生活や学習への意識について特徴的な傾向をいくつかあげます。全国的な傾向として、「長時間スマホは正答率が低い・新聞を読むほど正答率が高い」ことが挙げられるようです。

本校では、授業以外に学習に使う時間は「全体」より非常に長くなっており(図 4-1)、その学習時間の使い方は、自分で計画を立てていると回答している生徒が多くなっています(図 4-2)。逆にゲームやSNS、動画視聴などをする時間は少なくなっています(図 4-3、4-4)。図は平日の様子を表していますが、休日も時間の使い方についても同様の傾向にあります。これらのことは、学力面の成果として表れている要因と考えられます。

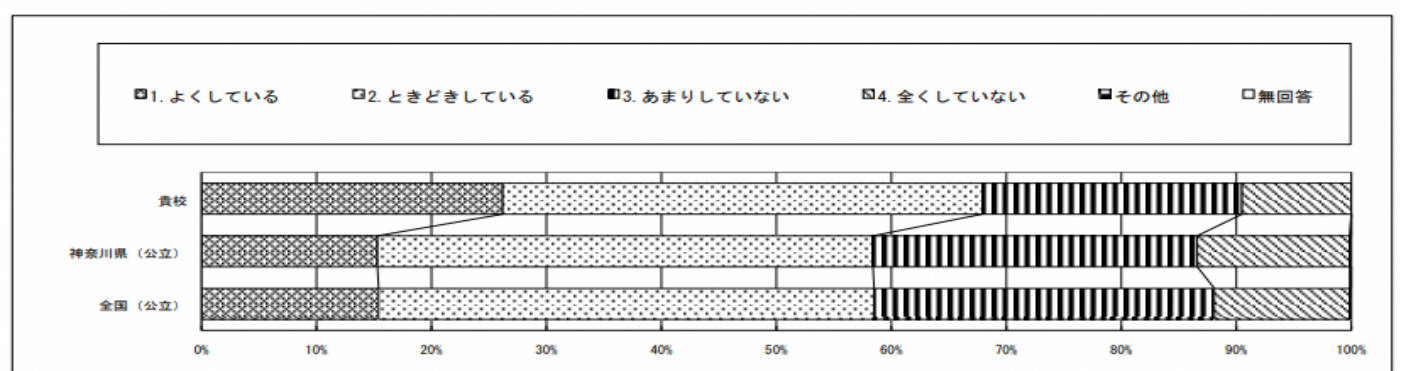
(図 4-1) 学校の授業以外に、1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか（塾なども含む）。

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴校	31.0	39.3	17.9	7.1	1.2	3.6				0.0	0.0
神奈川県（公立）	16.7	29.1	27.4	13.4	7.7	5.6				0.0	0.1
全国（公立）	9.9	25.3	34.3	17.0	8.5	4.9				0.0	0.0



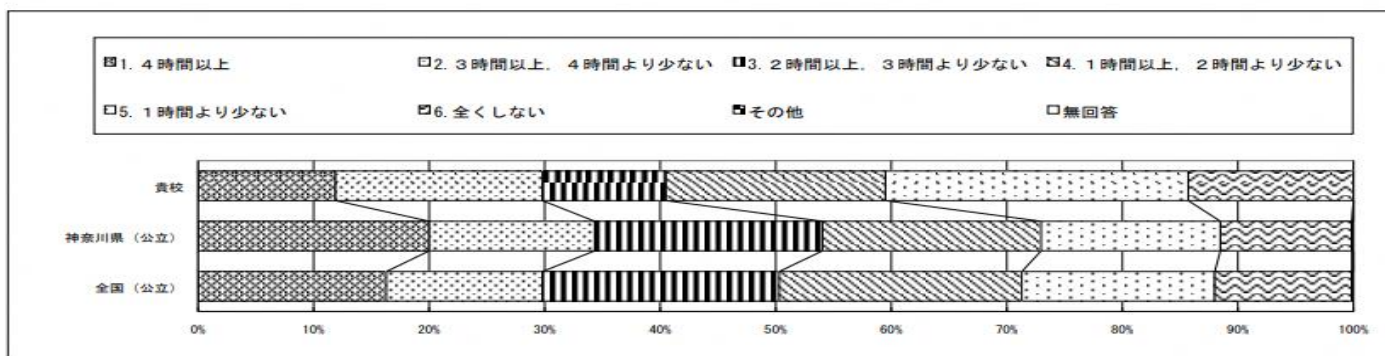
(図 4-2) 家で計画を立てて勉強をしていますか。

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴校	26.2	41.7	22.6	9.5						0.0	0.0
神奈川県（公立）	15.3	43.1	28.2	13.3						0.0	0.1
全国（公立）	15.4	43.1	29.6	11.8						0.0	0.1



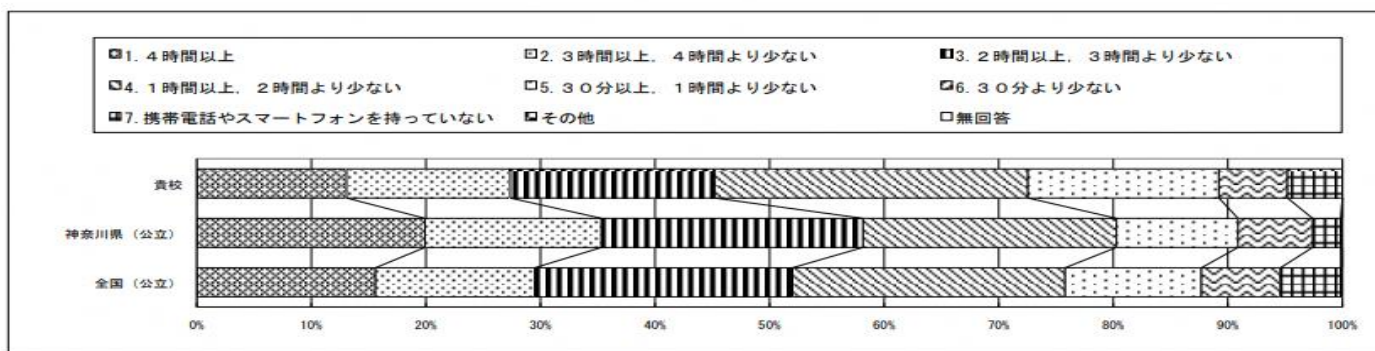
(図 4-3) 1日あたりどれくらいの時間、テレビやスマホなどのゲームをしますか。

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴校	11.9	17.9	10.7	19.0	26.2	14.3				0.0	0.0
神奈川県(公立)	20.0	14.3	19.7	18.9	15.5	11.4				0.0	0.1
全国(公立)	16.3	13.5	20.5	21.0	16.7	11.9				0.0	0.1



(図 4-4) 1日にどれくらいスマホでSNSや動画視聴をしますか。

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴校	13.1	14.3	17.9	27.4	16.7	6.0	4.8			0.0	0.0
神奈川県(公立)	19.9	15.4	22.8	22.1	10.6	6.5	2.5			0.0	0.1
全国(公立)	15.6	13.9	22.5	23.8	11.9	6.9	5.3			0.0	0.1



今回調査を行った教科の学習意識について、ほぼ全ての設問について「全体」を上回る回答が得られました。設問に「当てはまる」と回答した生徒の割合が「全体」より、多い設問には次のようなものがあります。

○「当てはまる」と回答をした生徒の割合が「全体」を10%より上まわる設問（その割合、「全体」との差）

国語

- ・国語の勉強は大切だと思いますか。(76.2%、11.8%)
- ・国語の授業内容はよくわかりますか。(47.6%、13.0%)

数学

- ・数学の勉強は好きですか。(44.0%、12.1%)
- ・数学の勉強は大切だと思いますか。(65.5%、13.4%)
- ・数学の授業の内容はよくわかりますか。(53.6%、15.4%)
- ・数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか。(34.5%、17.6%)
- ・数学の問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか。(47.6%、11.8%)
- ・数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか。(48.8%、14.2%)

理科

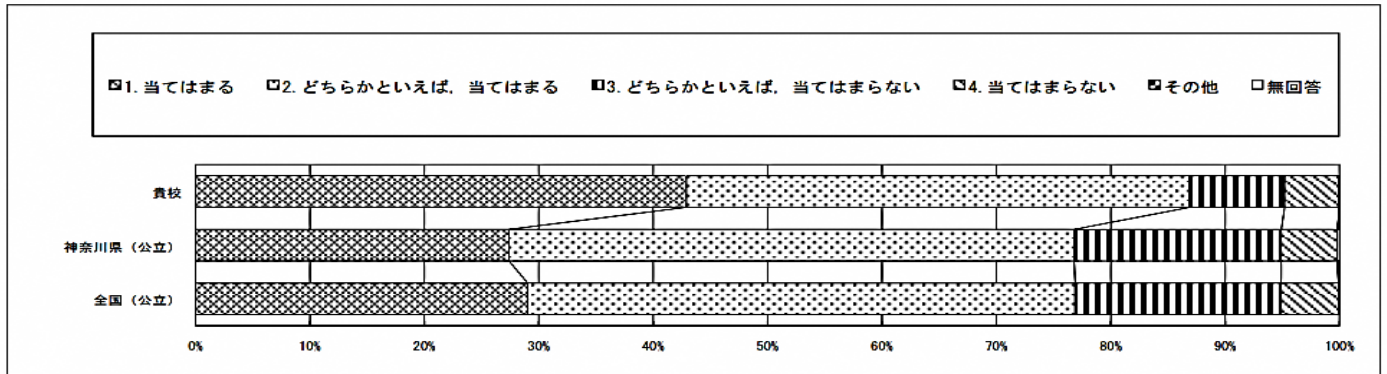
- ・理科の勉強は大切だと思いますか。(52.4%、15.5%)
- ・理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか。(32.1%、11.7%)

これらの結果からも単に勉強をさせられているのではなく、学習の必要性を感じ、一方で喜びを感じながら、粘り強く真理を追究し、さらにそれを今後役に立てていこうとする態度を身につけようとする生徒の割合が多いことがうかがえます。

そして、このような態度は教科の学習に限らず、学級活動を含め自分の生活や将来をどのようにしたいかを考える姿勢にも繋がっていると思われます(図 5-1、5-2、5-3)。

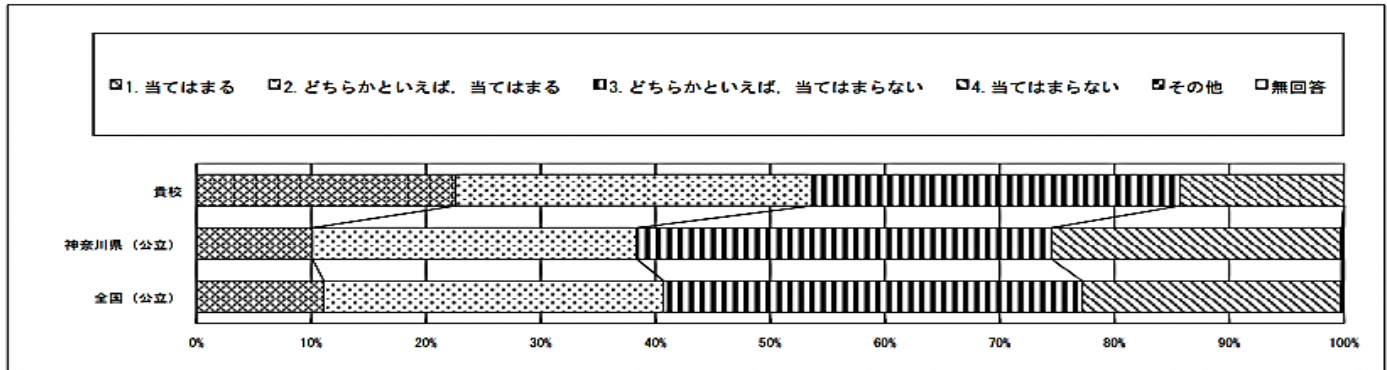
(図 5-1) 学級生活をよくするために話し合い、互いの意見の良さを生かして、解決方法を決めていますか。

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴校	42.9	44.0	8.3	4.8						0.0	0.0
神奈川県(公立)	27.4	49.4	18.1	4.9						0.0	0.2
全国(公立)	29.0	47.8	18.0	5.0						0.0	0.1



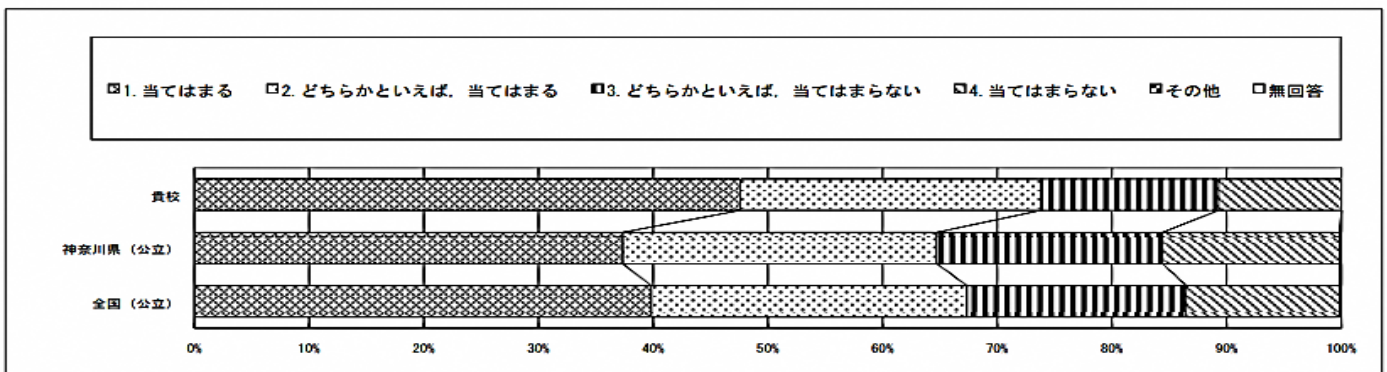
(図 5-2) 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか。

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴校	22.6	31.0	32.1	14.3						0.0	0.0
神奈川県(公立)	10.1	28.3	36.1	25.3						0.0	0.2
全国(公立)	11.1	29.6	36.5	22.6						0.0	0.2



(図 5-3) 将来の夢や目標を持っていますか

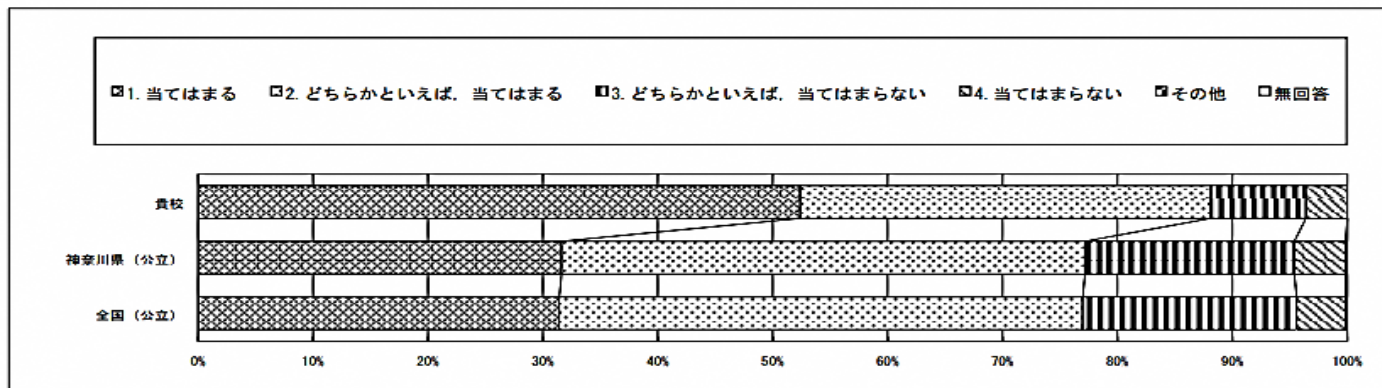
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴校	47.6	26.2	15.5	10.7						0.0	0.0
神奈川県(公立)	37.4	27.4	19.7	15.5						0.0	0.1
全国(公立)	39.8	27.5	19.1	13.4						0.0	0.1



自分の将来や生活全般を考える段階になると、自分のことのみを考えるだけでは済みません。良好な対人・人間関係が必要であり、学校でも友人と話し合ったり、意見を出し合ったりすることで自分の考えを構築することになります。これが十分にできるには、お互いが思ったことを表現し合い、意見が食い違っても相手に攻撃されるような不安がなく、お互いを認め合い、困ったときに助け合える学級や学年の所属集団が安心・信頼感のある場所であることが大切です(図 6-1、6-2、6-3)。

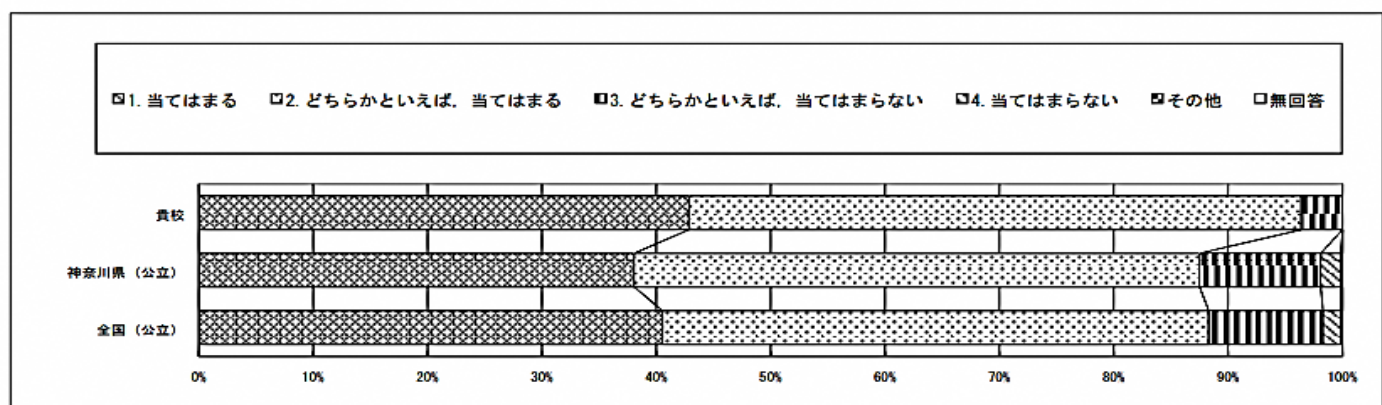
(図 6-1) 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思えますか。

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴校	52.4	35.7	8.3	3.6						0.0	0.0
神奈川県(公立)	31.6	45.5	18.2	4.5						0.0	0.1
全国(公立)	31.4	45.5	18.6	4.3						0.0	0.1



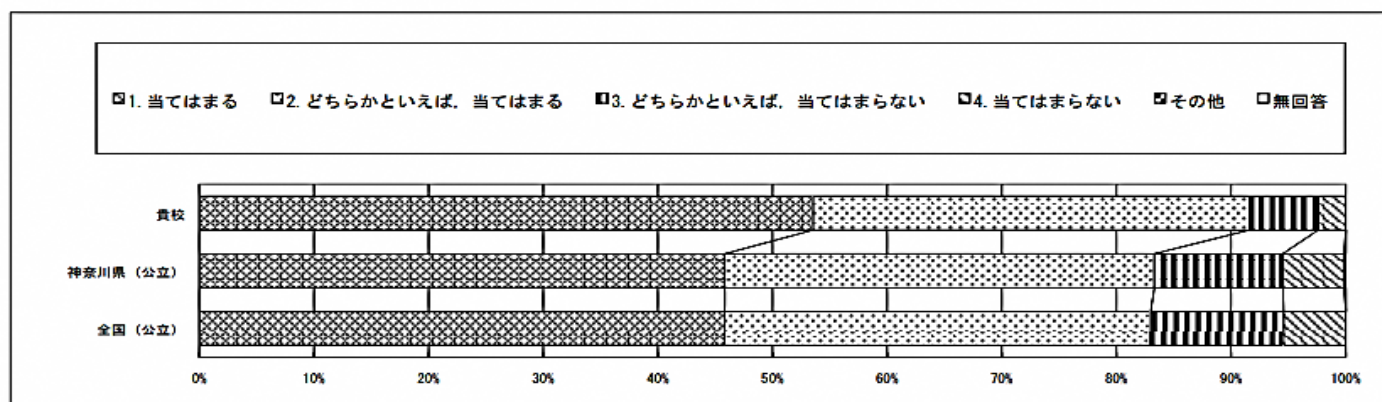
(図 6-2) 人が困っているときは、進んで助けていますか。

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴校	42.9	53.6	3.6	0.0						0.0	0.0
神奈川県(公立)	38.1	49.5	10.6	1.8						0.0	0.1
全国(公立)	40.6	47.8	10.0	1.6						0.0	0.1



(図 6-3) 学校に行くのは楽しいと思えますか。

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴校	53.6	38.1	6.0	2.4						0.0	0.0
神奈川県(公立)	45.9	37.5	11.2	5.4						0.0	0.1
全国(公立)	45.8	37.1	11.6	5.4						0.0	0.0

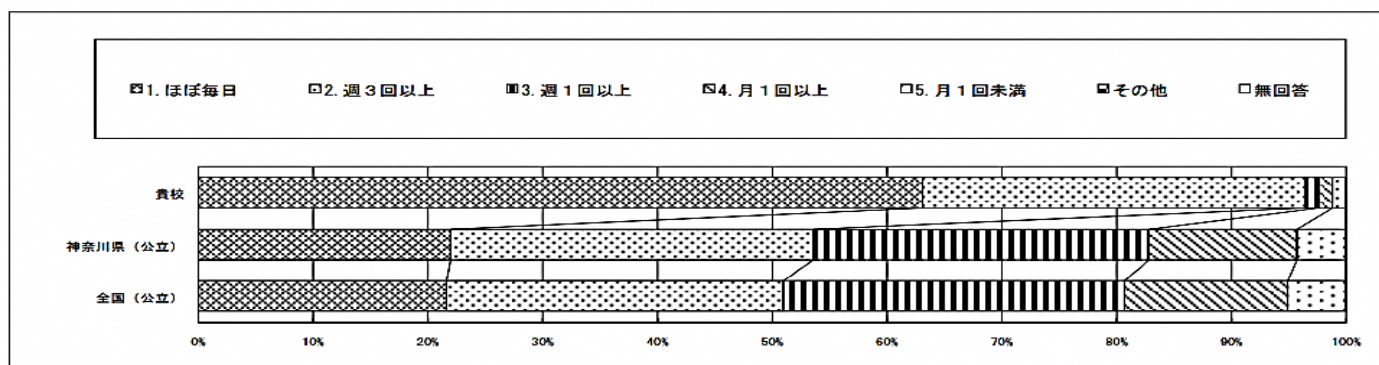


最後にICT機器の利活用について、判明したことと今後と考えられることを示します。昨年度まで本校は横浜市「情報教育実践推進校」としてICT機器利活用を推進してきました。生徒に端末を“文房具”として、正しく使えるように利活用する機会をできる限り増やし、指導しました。市立中学校のICT機器利活用のまさに“牽引役”というべき役割を担ってきましたが、取組結果は生徒質問紙からも明らかです(図7-1)。

但し、その利活用方法については課題があり、調べ学習(検索)やWeb会議ツールとしては十分に利活用できたものの、自分の考えをまとめ、発表するための“ツール(道具)”としては、今後さらに取り組む機会等を充実させる余地があることがわかります(図7-2、7-3)。さらに夏休みの端末持ち帰り(家庭等での使用)結果を踏まえ、さらなる利活用推進化を目指します。

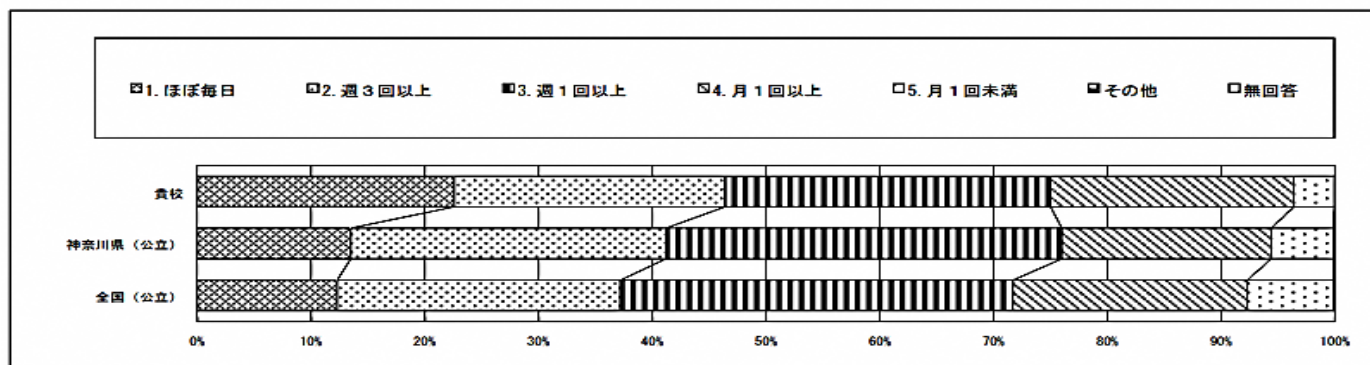
(図7-1) 授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴校	63.1	33.3	1.2	1.2	1.2					0.0	0.0
神奈川県(公立)	22.0	31.6	29.3	12.9	4.2					0.0	0.1
全国(公立)	21.6	29.3	29.7	14.2	5.0					0.0	0.1



(図7-2) 授業中に自分で調べる場面でICT機器をどの程度使っていますか。

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴校	22.6	23.8	28.6	21.4	3.6					0.0	0.0
神奈川県(公立)	13.5	27.7	34.8	18.4	5.5					0.0	0.1
全国(公立)	12.3	24.9	34.5	20.6	7.6					0.0	0.1



(図7-3) 学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、ICT機器をどの程度使っていますか。

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴校	6.0	6.0	20.2	40.5	27.4					0.0	0.0
神奈川県(公立)	4.4	9.6	19.8	34.1	32.0					0.0	0.1
全国(公立)	4.7	10.3	20.3	32.3	32.3					0.0	0.1

